

# 黒田清輝著述集

東京文化財研究所 編

■体裁 A5判 上製函入 本文720頁

■定価 16,800円(本体16,000円+税)

ISBN978-4-8055-0550-2 C3070



黒田清輝撮影

## 本書の凡例

\*本書は明治・大正期に新聞・雑誌で活字化された、黒田清輝の署名のある文章・談話・座談会等の記事を再録した著述集である。他の新聞・雑誌へ転載された記事については、初出のものに限って再録した。

\*右の記事のうち、既刊の黒田清輝『絵画の将来』(中央公論美術出版 昭和五八年六月)に再録されているものは原則として除いた。ただし同書に収録された『美術学校と西洋画』と『洋画問答』は、『毎日新聞』と『太陽』の記事を転載したものであり、本書ではその初出文献を典拠として再録した。また『絵画の将来』で黒田の書簡のみを抽出して再録した『蹄の痕』については、本書ではその全記事を再録した。

\*記事は新聞・雑誌に掲載された年代順に再録した。

\*再録した記事の末尾には、その内容の補足説明や関連文献の紹介等について適宜注釈を付した。連載記事の場合は、その連載の最後の記事に注釈を付した。

\*記事の再録にあたっては、原典の字体を極力忠実に再現した。ただし注釈中の引用については、この限りではない。

\*記事の再録にあたり、原典のルビについては現行の読みと異なるような場合を除き、これを省略した。

\*再録した記事中、「」で括られた箇所は編集の必要上、その字句を補ったことを示す。原典の欠損等により判読不能な文字は□で表記した。また明らかに誤字と思われる箇所については原典のまま表記し、その右脇に「ママ」と入れた。

\*再録した記事中、一部不適切な表現があるが、黒田清輝著述の忠実かつ網羅的な収録を期した基礎資料であることを考慮し、原典通り表記した。

\*注釈中、『絵画の将来』は昭和五八年六月に中央公論美術出版より刊行された黒田清輝『絵画の将来』を、『黒田清輝日記』は昭和四一年七月〜四年二月に中央公論美術出版より刊行された『黒田清輝日記』第一巻〜四巻を指す。

## 黒田清輝日記(全四巻)

[オンデマンド版]

黒田清輝 著(隈元謙次郎 編)

■体裁 A5判 カバー装 通巻 1446頁 口絵48頁

■全四巻定価合計 17,910円(税込)

日本近代文化史に欠かせぬ存在である黒田清輝の、明治17年フランス留学に始まり大正12年に至る40年間の日記は、内外の芸術・文化・多彩な人物の動静をつぶさに伝える資料としても、天賦の芸術家の生涯の記録としても大きな価値をもつ。[1巻・明治17〜26年、2巻・明治27〜36年、3巻・明治36〜大正4年、4巻・大正4〜12年。付年譜]

## 絵画の将来

[オンデマンド版]

黒田清輝文集(陰里鉄郎 編)

■体裁 A5判 カバー装 本文 320頁 口絵8頁

■定価 5,040円(税込) ISBN4-8055-1212-1

19世紀中葉のフランスの明るく外光描写を移入し明治洋画壇に一転機を作り、東京美術学校西洋画科の創設に際して指導者として参画し、美術界に多大の功績を残して日本近代洋画の確立者に位置づけられる黒田清輝(1866-1924)。その半生の画業や美術院長、貴族院議員など幾多の顕職の折々に語った文章は多数にのぼるが、それを美術一般・日本美術・西洋美術・思い出・紀行・書簡などに分類し収録する。

19世紀中葉のフランスの明るい外光描写を移入し明治洋画壇に一転機を作り、東京美術学校西洋画科の創設に際して指導者として参画し、美術界に多大の功績を残して日本近代洋画の確立者に位置づけられる黒田清輝(1866～1924)。彼の遺した日記「黒田清輝日記〈全四巻〉」(小社刊)、及び文集「絵画の将来」(小社刊)の刊行に続き、当時の諸新聞、雑誌等に掲載された文献を収集し収録した著述集。

### 再録文献一覧

画家の戦地観察	写生の方法とその価値	安藤仲太郎氏逝く
画家の従軍日記	画家となりし紀念の画	正倉院拝観の所感
美術学校と西洋画	洋画の将来	黒田画伯とスコット大佐夫人
洋画問答	復興期画談	国民的美術機関
LA PEINTURE JAPONAISE.	名士と山水 東西洋の山川観	国民美術館の設立(国民美術協会新計画)
黒田清輝氏の裸美人談	余の特性發揮経路	私の見た桜島の大爆発
黒田清輝君を訪ふ	洋画家の見たる雅邦翁	批評家に望む
黒田清輝氏の画室を訪ふ	肖像画作法座談	建築物と壁画
美術教育の方針	画界漫言	婦人と絵画
美術界消息 黒田清輝氏の美術教育 に関する意見書	団體的展覽會	文展洋画の鑑査終る(本年は後期印象派)
千萬言 黒田清輝氏の裸体画談	第二回文部省美術展覽會批評	世界の美人を探しても(之に優るものは無い 「春のひかり」)
名家談叢 洋画談	明治五年頃の洋画	趣味としての西洋画
博覧会の洋画	塵談 美術院の設立を望む	文展審査員諸家の感想 文展審査所感
日本芝居の初見物	自然に対する態度	仏国画界の巨星コラン氏巴里に逝く
歌舞伎座合評	仏国画家コラン先生	仏国の名画家コラン氏逝く
黒田画伯の配色談	我が国に於ける洋画研究の態度	大画家コラン翁死す 我洋画界唯一の恩人たりし
ドラクロアの画談	美術家の昨今 黒田清輝氏	仏国の大芸術家コラン氏
黒田清輝画伯の談片	自然を無意味に写すと不自然となる	コラン逝けり 仏国画界の巨星
画談叢話(四則)	第三回文部省美術展覽會に就いて	仏国画壇の巨星隕つ 逝けるコラン先生
白馬会雑感	滑稽趣味(十九)	ストーブを囲みて
譚叢 洋画家の演劇観	巴里のモデル	コランの画 陳列禁止 日本文明の汚点
仏国の学生	諸家の両展覽會談(黒田清輝、和田英作両氏談)	日本画家の弊
露西亞の芸術	諸家の両展覽會談(黒田清輝画伯談片)	本年の文展の洋画に就て
露西亞の芸術	はなしだね 黒田清輝伯のモデル物語	今年は素人絵が尠い
島津齊彬公と瑠璃製造	風景画の変遷—仏蘭西の印象	雑録 審査の方針
蹄の痕	西洋画の成績	大正六年美術界回想—最も印象の深かった事—
白馬会の回顧	将来の大国民	松方侯に捧ぐる二百万円の名画
白馬会経営譚	図画教育に関する所見	構図的傾向と製作 至らぬところ
名家を訪ひて 美術界の傾向	新に帝室技芸員に任ぜられたる所感	審査員談叢 文展洋画所感
美術	白馬会の解散	美術館建設の提唱
将来の美術界に対する希望	海洋と絵画と	如何なる美術館が必要か?
独仏国境旅行日記抜書	二度の会見	美術館建設運動の経過
邦人と外人の目に映ずる秋の景趣	愉快に楽しむ絵	美術界新潮 平和克復と秋の文展
山本芳翠氏の逸話	洋画の新傾向と研究の態度	仏国巨匠ロール氏逝く
官立美術展覽會開設の急務	杉浦君の表紙画	平和博の美術館を見て
かげ及び裸体画	私は豪傑主義の少年だった	神宮壁画館問題
芸術上実験処世実験譚	油絵の賞鑑	春日閑話
美術と文部省	住宅の快感	
	文展出品(その十六)『習作』	

# 中央公論美術出版

<http://www.chukobi.co.jp>

〒104-0031 東京都中央区京橋2-8-7

電話 03-3561-5993 FAX 03-3561-5834

お取り扱いは